

インマヌエル中目黒キリスト教会

2016年6月12日聖日礼拝

使徒の働き連講(75)終講

「大胆に神の国を宣べ伝え」

使徒の働き

28章16節-31節

竿代照夫牧師

聖書朗読 新約聖書

使徒の働き

28章16節～31節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会)を使用しています
第二版の聖書は 263 ページ
第三版の聖書は 287 ページ

16 私たちがローマに入ると、パウロは番兵付きで自分だけの家に住むことが許された。

17 三日の後、パウロはユダヤ人のおもだった人たちを呼び集め、彼らが集まったときに、こう言った。「兄弟たち。私は、私の国民に対しても、先祖の慣習に対しても、何一つそむくことはしていないのに、エルサレムで囚人としてローマ人の手に渡されました。

18 ローマ人は私を取り調べましたが、私を死刑にする理由が何もなかったのです、

私を釈放しようと思ったのです。

19 ところが、ユダヤ人たちが反対したため、私はやむなくカイザルに上訴しました。それは、私の同胞を訴えようとしたものではありません。

20 このようなわけで、私は、あなたがたに会ってお話ししようと思い、お招きしました。私はイスラエルの望みのためにこの鎖につながれているのです。」

21 すると、彼らはこう言った。「私たちは、あなたのことについて、ユダヤから何の知らせも受けておりません。また、

当地に来た兄弟たちの中で、あなたについて悪いことを告げたり、話したりした者はありません。

22 私たちは、あなたが考えておられることを、直接あなたから聞くのがよいと思っています。この宗派については、至る所で非難があることを私たちは知っているからです。」

23 そこで、彼らは日を定めて、さらに大ぜいでパウロの宿にやって来た。彼は朝から晩まで語り続けた。神の国のことをあかしし、また、モーセの律法と預言者

たちの書によって、イエスのことについて彼らを説得しようとした。

24 ある人々は彼の語る事を信じたが、ある人々は信じようとしなかった。

25 こうして、彼らは、お互いの意見が一致せずには帰りかけたので、パウロは一言、次のように言った。「聖霊が預言者イザヤを通してあなたがたの父祖たちに語られたことは、まさにそのとおりでした。

26 『この民のところに行って、告げよ。あなたがたは確かに聞きはするが、決して悟らない。確かに見てはいるが、決して

てわからない。

27 この民の心は鈍くなり、その耳は遠く、その目はつぶっているからである。それは、彼らがその目で見、その耳で聞き、その心で悟って、立ち返り、わたしにいやされることのないためである。』

28 ですから、承知しておいてください。神のこの救いは、異邦人に送られました。彼らは、耳を傾けるでしょう。」

30 こうしてパウロは満二年の間、自費で借りた家に住み、たずねて来る人たちをみな迎えて、

31 大胆に、少しも妨げられることなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた。

説教

使徒の働き連講（75）終講

「大胆に神の国を宣べ伝え」

使徒の働き 28章16節-31節

竿代照夫牧師

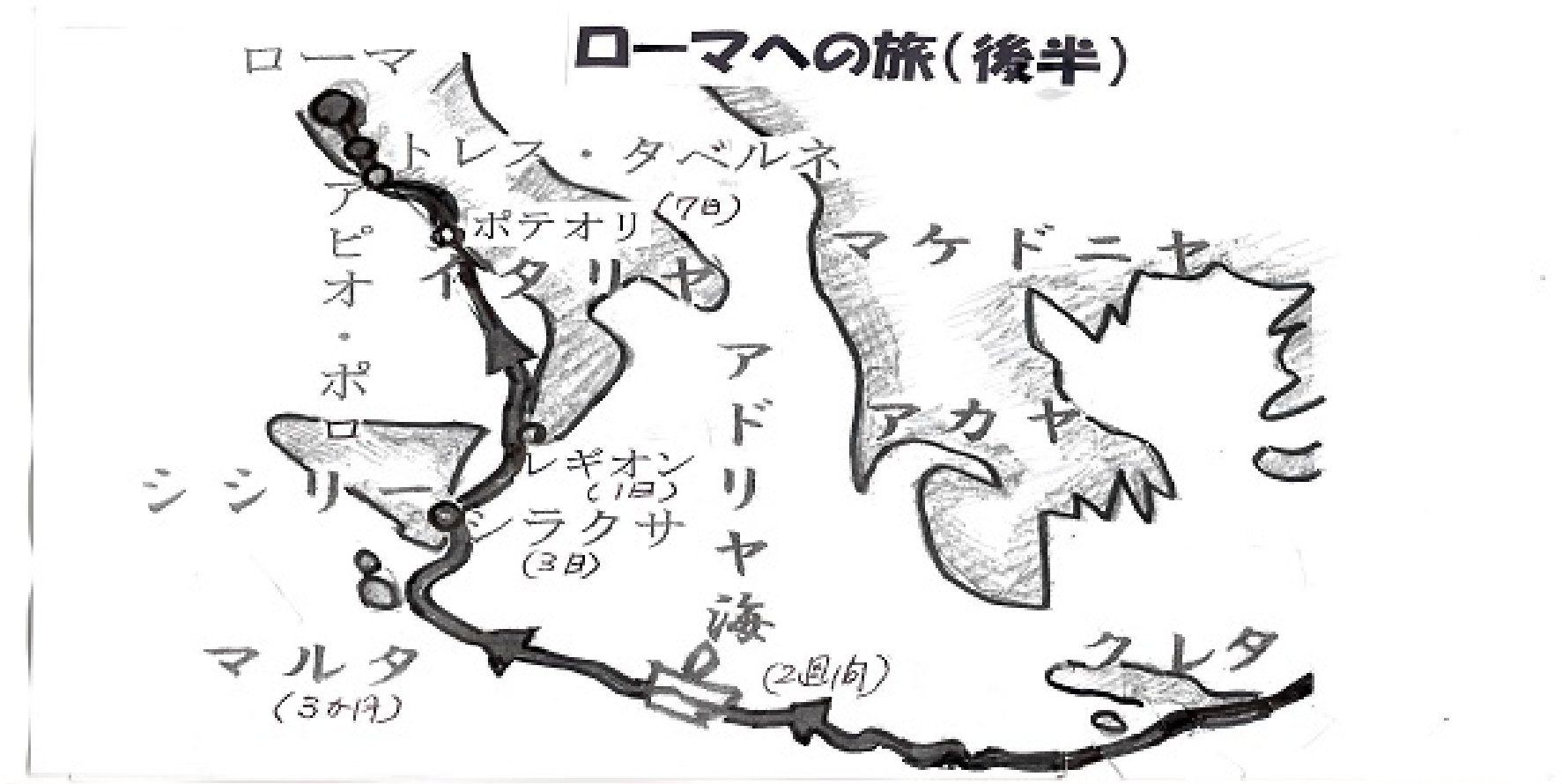
主テキスト

こうしてパウロは・・・
大胆に、少しも妨げられることなく、
神の国を宣べ伝え、
主イエス・キリストのことを教えた。

(使徒の働き 28:30-31)

前回のまとめ:

ローマウェルカムチームによる勇気づけ(28:15)



1. ローマでの生活(16節)

- ・ローマ市について

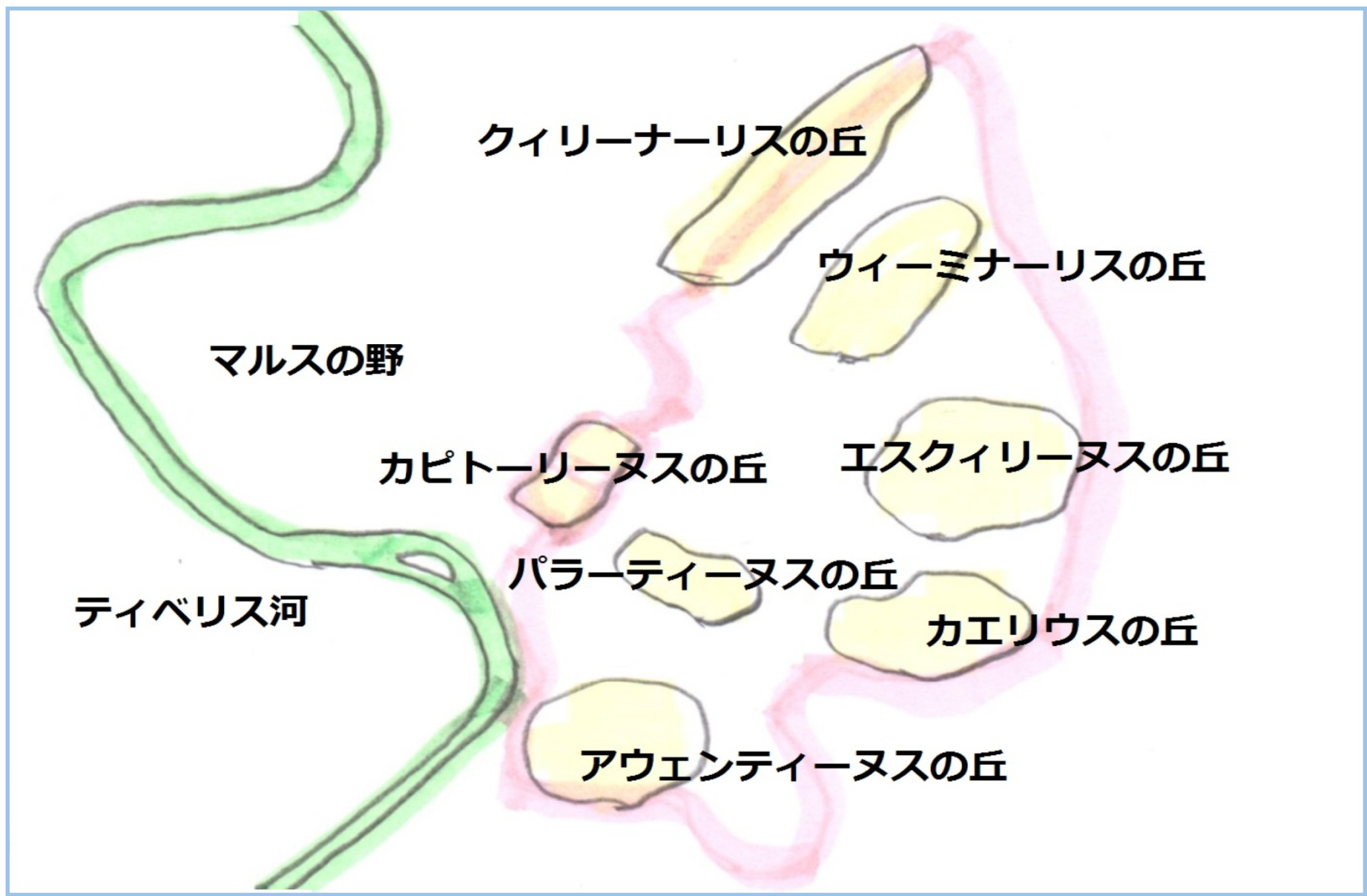
(ローマ市街地図およびフォロ・ロマーノ写真参照)

7つの丘に囲まれた集落から
インフラ整備によって大都会に成長

フォロ・ロマーノ(ローマの広場)が
中心

- ・ローマでの「借家」

囚人ではあるが、特別待遇を受ける



ローマ市街地図



フォロ・ロマーノの遺跡

2. ユダヤ人指導者との 第一回会合(17~22節)

- ・パウロ、裁判の経緯を説明する
自分は無実であるが、不当な扱いへの
抗議も込めて上訴している
- ・指導者たちの慎重な対応
自分たちは、パウロについて、
正式な知らせを受けていない
特にパウロの悪評判は聞いていない
ただ、「ユダヤ教キリスト派」につい
ては、多くの非難を聞いている

3. ユダヤ人指導者との 第二回会合(23 ~ 28節)

- ・パウロ、福音を伝える
聖書は来るべきメシヤについて預言している
メシヤは、贖いの死と復活によって救いを全う
した
そのメシヤは、ナザレのイエスに他ならない
- ・人々の反応は分かれる
信じた少数と信じなかった多数との間で対立

3. ユダヤ人指導者との 第二回会合(23～28節)

- ・パウロは、不信の多数に審判を宣告する
神の言葉が充分語られても信じない人々が
存在することは、イザヤによって預言されて
いる
多くのユダヤ人の不信のゆえに、神の救いは
異邦人に送られた

4 . 二年間の幽囚と証しの生活(30-31節)

- ・ 不自由さを逆手に取って伝道
「出て行けないならば、招けばよい」
- ・ ピリピ書
警護兵達を通して福音が広まり、それが
他のクリスチャン達の刺激となった
1章12~14節

・ピリピ書(1章12~14節)

「私の身に起こったことが、かえって福音を前進させることになったのを知ってもらいたいと思います。私がキリストのゆえに投獄されている、ということは、親衛隊の全員と、そのほかのすべての人にも明らかにになり、また兄弟たちの大多数は、私が投獄されたことにより、主にあって確信を与えられ、恐れることなく、ますます大胆に神のことばを語るようになりました。」

・エペソ書

鎖に繋がれたまま福音の大使となった
(6章19~20節)

「私が口を開くとき、語るべきことばが与えられ、福音の奥義を大胆に知らせることができるよう、私のためにも祈ってください。私は鎖につながれて、福音のために大使の役を果たしています。鎖につながれていても、語るべきことを大胆に語れるように、祈ってください。」

・コロサイ書

み言葉のための門が開かれた

(4章3~4節)

「同時に、私たちのためにも、神がみことばのために門を開いてくださって、私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください。この奥義のために、私は牢に入られています。また、私がこの奥義を、当然語るべき語り方で、はっきり語れるように、祈ってください。」

・ピレモン書

獄中で個人伝道をした(9~10節)

「年老いてキリスト・イエスの囚人とな
なっている私パウロが、獄中で生んだ
わが子オネシモ……」

・大胆に伝道

「大胆」(パレーシア)とは、
「全ての言葉、発言」

聖霊の与える自由によって、
語るべきことを曲げず、
省かずに語ること

・妨げられずに伝道

キリスト教が非合法扱いを
受けることなく

おわりに:

未完結の
使徒行伝の
続きを書くのは
「あなた」